安倍晴明物語 天文之部秘傳

四

へ遠13
2506
7-4

へ遠13
2506
7-4

安倍晴明天文奏聞

天地いまだわかれざる時、混沌たること鶏子の如し。ひとたびわかれて清浄なる者は上に昇りて天となり、濁れる者は下に降りて地となる。その気の分れ、陰陽の二儀、ここに生ずるなり。陽は動くものなり。陰は静かなるものなり。動くものは生じ、静かなるものは成る。陽は一陽一陽をもつて、ようやくに生じ、陰は一陰一陰をもつて、ようやくに成る。陽気変じて陰気となり、合して六物の気となり、散じて五行となる。五行とは木火土金水なり。ここに木火土金水の五行の中に、陽の中の陽を木と名づけ、陽の中の陰を火と名づけ、陰の中の陽を土と名づけ、陰の中の陰を金と名づけ、陰の中の陰を水と名づけ、

天とうこうの気分みて地ふうてわ。しるの気
りきハ極火とあり。腹ハ天くれこゝハ海と
なり。頭ハ天ようあり。足ハ金輪際ようこゝ一世
界と地神とうてたゝまつりまつるこゝハ日しるあり。ぢのま
なこハ月とうこゝ吹息ハ風とあり。性命ハ雷とあり。
呼とうこゝ雨とあり。吸ハ雲とあり。ふ行て
大精でうとうづけ。下ふ行て小精でハ雲雨。地神
とうづく。うまうこゝ世界とうこゝまつるべ。八方八極
うれく命さいまつるべ。乾道ハうれて男女を
し。坤道ハうれ女とうこゝ生ずべ。こゝ生ずべ
つゝて天地人のこゝろうあり。ひとの身体して

物生ずべ。ふりの性ハ精ふりて秀ものの色
ハ生ずべ。こゝ生ずべ。ものの性ハ乃亜
しきものこゝ人とあり。目ハ肝ようて金とつゝ。こゝ耳ハ
さゝ。鼻ハ肺ようて金とつゝ。こゝ舌ハ
肝ようて金とつゝ。こゝ水とけ。こゝ。こゝ。唇ハ脾ようて土とつゝ。
ちとつゝ。こゝ。こゝ。ハ心ようて火とつゝ。こゝ。
火と金水の五りハ心肝脾肺腎の五義となり
五とは五味とこゝ。白ひとうこゝ。とうこゝ。とうこゝ。
ちゝ。生ずべ。こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。
こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。
こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。
こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。
こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。
こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。

五人と名づけ、陰陽の変じて陰気なるものを
きざしの色黄と生じ、陽の輝気なるものを
第木と名づけ、五行の気、天地万物の気
くこと生ずるなり。天の一を北に生じ、地の二を成
生じ、三を東と生じ、四を西と生じ、五を
万物の始まり通ずと雖ども、一元の気より
なるべし。されども、陰陽の輝気なるものは、
の輝気なるものは、陽陽陽陽
より生じ、されど一元の気のきざしてあるべ
その方位とのづからなれば

ひとしてあるべしとあり。つぎに八卦とあり。一元
の気のきざして地よりあるものは、五極とのび
ゆくなり。そもそもこれは海にあり。海にて、
月となるべしとあり。故に八卦とは
月、人、土、木、火、金、水、五極まつりごとなり。
あるときはきざしの気の毛あり
し。毛の数三百六十と生じ、風風とつくさん
面八方とつくさんとの気きざしてその毛あり
くきざしの数三百六十と生じ、経緯とつく
さん中央八方とをつくさんとの気きざし。土用の気きざしく
をつくさん美なり。裸虫の数三百六十と生じ、人を

これによつてれバ西ハ金とし秋の氣さざ
してその肉かたく甲虫三百六十をつかさどり
亀と定めて北ハ水をつかさどり冬の氣さむ
ぐしてその肉なく鱗の數三百六十をつかさどり
つきとれバ人ハ中央に生じて万物の長也
又鱗の毛と関ふそそ人ハ天官目みゝはな身に体あり天
理によりて時にしたがふ人ハいきものゝかしら
ぞその天理ハ天地の道也すなはち畜生ハ天地
の道をしらず人ハ五常をしりたれバこそ
かしこきもの也

第一　日月星之弁
第二　雲氣之弁
第三　風雨之候
第四　虹之候
第五　電之候
第六　日輪之候
第七　月輪之候
第八　德星之弁
第九　壽星之弁
第十　妖星の弁

安倍晴明天文奏上

一　日月星之事

日月これ陽の精下界にあらわれて人事あり男女
ようこと是なるべし。金烏とかつ。烏は陽の数也
月は陰の精也。陽谷とかつ。谷とは水
の光まれとも陽谷とかつ。谷とは水
つまこと日の出る大なる早朝しかば
未明にこれ拍子。羿とかつ。羿とは
きて射こそらるゝ。ふるの乃日を射おとしけるとは
烏うてあり。羿は弓の名人なり。紙
のこと度実中也。ふるつまと月の精と
なづくとかつ。是は陽の数に当也。火の形三角

なるこゝとあるゆゑに月は陰の精陽の精
をあらはす月の中よりは蟾と兎あり兎は陰の精氣よ
つまれば月あらたに新となるゆゑに月のひかりとう
けて月みはたらきあるゆゑ日と月とめぐりて虧盈の
なる時ゆゑ日は滿月あり月とかるゝまゝ虧なる
ゆゑに月翳て新となるゆゑに蟾のうちみこゝろ雌
ゲ雄のうけあるゆゑ月はこゝろ陰のうごきの
特なり八月十五夜は月さんみの中ふつうとはくく
みのとうつまて盛じてみとゝひとしのありぬるよ
うに八月うまれ生じて月はうゝ陰陽の氣胥月
の能すゝ事は腹汁都とてふうきこの星に

めぐりうまれぬそのひかりとうさぐ陰ぬこれ義法うて
その日我にとりあるふまりあり星はこゝ百魂の
精陽の業あり陽氣のさかりあるゆゑ陽の精は日あり日
の精あまりて星となるゆゑに星は陰の精なり陽は日月
生じて書也君臣の中よりて義よりてこゝひ
てめぐりあり

二　雲氣の弁

雲はうれ山川の氣也所ゆゑにたちうりとよ
そみるの雲とうりて年中の雲色とうゝなひ
雲のうゝとうりゝ軍法の徴兵とふまるゝ
雲の日雲氣とうりゝ陰陽とふまるゝ

ありぬべき疫病なりやつぶんにて死ぬべきは夫婦
ち乳とぶらきと清めつ黄なるは人数ゆさく也
春の己卯の日風ふけば、その年大風わり。夏の己
卯の日風ふけば。人数ゆ絶なり秋の己卯は日風
あけば日旱と。冬の己卯の日風あれば人大疫
とぶべし
寅卯の時。或は寅卯の方ふ常はくなる。或は白
くぶ人ふきは甲しの日うあるどあるあ辰己の時あ
るひは辰巳はあるふ甲ちあ白きとはあるかれくる
酉丁の日雨あり午未の時あるひは午未の方より
きありて日とあるは戌己ぶん日雨あるは昼あり

日雨ふるとは万物とうことなひらくしも也
元日にゆうり黄なるきと氣あるは人数大り穀
とぶきと氣あり黄なるのまどいるは糧の害あ
つもぶるきは日旱ふるきは大水あり春分は日中
赤ふのふきとあるは麦ふるぶ。ぶきあるは万物
實らず。疫病ありぶの日晴あるとあるは穀
物よりぶ。立夏の日の己時あるは方より氣
色あるきと氣のうあるは午ゆきは地氣ふれどその年災
たり。夏至の日六月の午時西方よりぶ氣あるは
百穀よりぶ。立秋の日七月ふ氣あるきは人数
このぶ人ふ疫あり立秋の日の申時西方の方に

おもさ三ヶあまりは栗米ふうんしゃくふさハ百姓この
うえに地震あり。牛ゐるおもわりて死とるまゝ米も
月まで雨ふりつゞく。秋分の日 八月の日入付ふ南の方よ
りさゝきあるは年ゆきたゞ人数このゝ中ゆきあるさ
ゝ新わりてそ人こゝ病おゝり。来年の二月よりてさ
ふ立ての日 十月の西の方ゝ乃ゝ雨ふりて氣わりて殺
ゝくるゝ人ゝ病ふ所ゝ麻苦うふ。来年ゆ
たゞ地震ふけ来はたゞ国じて物ゝ高ひ人疫
と。来四月よりてふ立ての日 十月の中ゆゝさ
ゝ高ゝ来年大ゝ苦ゝふさハ逆ゝ乱氣
あるは旱ゝさハ疫苦ゝ大災あり

四月より四月の大日乃雨ゆゝ物ゝ
て地ゝ立てその月新ゝ
ゝ乃ゝ七尺ゝ
物ゝ七尺ゝ
大尺ハ疫ゝ三尺ハ天下大ふ日てりゝ
て雨ゆゝ乱ふれゝ
ゝ人死ゝ地ゝ
逆ゝ乱ゝ
死ゝ
て滅ゝ

こゝろのやまひ[illegible]日の儀[illegible]あるは大かた軍
[illegible]三日月こゝろはなかう出[illegible]
[illegible]は大軍[illegible]
軍のこゝろ陣中の氣わゝ形ら物のこゝろ
陣の角ふるびさゝるは時の氣
陣の氣人の首の髮とゝ
の陣爰り　沙宮ゑびき入る大ゝ
沙とゝ[illegible]ひ[illegible]とわ[illegible]
[illegible]なるは歳[illegible]
[illegible]軍[illegible]
紙へ

三　風雨〳〵候

秋の[illegible]ひ[illegible]風[illegible]
雨[illegible]
[illegible]下肥[illegible]
[illegible]雨[illegible]
稲の[illegible]
[illegible]日[illegible]風[illegible]
[illegible]雨[illegible]
月の[illegible]六日に雨[illegible]
大風[illegible]
夏〳〵秋[illegible]の夜[illegible]大風[illegible]

星のひかり瞬(きらめき)て白きハ風あるべし寅戌の時より
降(ふり)て少し吹(ふい)ても西風やがてやむあり午子の時よ
降(ふり)吹(ふき)ても西風なきハやまず雨ふりて午以時よ
晴て日のさゆるハ大雨の兆し秋に入てもやまず
西北(いぬゐ)の空に黒雲たつ時ハ雨なり夏ハ雷(いかづち)をひくし
赤き雲ありて日の出まへに出るハ雨なり魚鱗(ぎよりん)のごとく
なる雲いでし時ハ雨ふりて後ハ風ふくなり
秋ハ東南(たつみ)の方にある雲は雨ふるべし夏西
北(いぬゐ)未申の方にある風あれど西風あるべし
艮(うしとら)の方より雨あり巽(たつみ)の方は雨晴が卯の刻より風
あるはを日雨あり月をでに暈(かさ)有(あり)とくなる雨

ある年車(やぐるま)雲とあがりほどの雲のこともあハ風をまくと吹
風らふ女の(?)雉ぬきて雉子鳴とびあがり蜂群むらがり雲
みな雨兆也
日の出まへに雲ありて日の色あかき時は大風ふくべし
申(さる)の時より後に日暈(にちうん) 耳(みみ)のごとく日の左右にあるをいふ 明日雨
あらバ一揮ハ雲あつくなる雨の日くもりやうど雨揮ハ秋の日ぐれや
むも午の時まへおなじ日に暈(かさ)あるは北風ふく午の後(のち)
よあるは風静也日の暈朔より白く雲に赤き
ハ大風ふくとも雨とかくれば日のへよりくわ
かさ日のまこあるは雨なし風あり朔日あらくして
天をこかもこハ風吹あり朔日あらく速とき雨

あるべし

四 虹の條

虹立て見ゆるは明日雨ある也。東にみゆるハ雨なくして風ふく。虹きれぎれにひかりあるは風たゞちにふく。日暮に東南にみゆるハからき風となるべし

五 電の條

電光西南の方にみゆるは明日天気よし。西北の方にみゆるハ雨ふり。電光きれぎれてひかるハ雨晴て風もなし。夏の風ハ電のさきにあり。秋の風ハ電光のあとにしたがひて来也

六 日輪の條

日輪の黄なる色あらバ日に三方に年のうちに徳あるは天下太平にして国家安穏なるべし也。雨の日なれども出ることあれバ四海太平天下長久のしるし也。帝王位の日、雨日なれども出てもより百八十年天下おさまれり。古の天王かくれ日をのきてはなさるゝこれ又天下太平の徴、五穀豊饒万物ゆたかにして栄ゆるしるしなり。雨日にて一所に出る、これ大乱大水になるしるし也。月と日と一所に出て日光ハ月の中に室あらバ事これ大乱なり。秦の子嬰

去る時一年これあるべし　ぶ中かくのごとく月ふ
さ月ふ〜ひ出さるべはだ乱りと元亀元年の頃
乃至ゆふこころさるべ。遠の国の時こまあり
白さまあり。日をとつぬ年が地ぶ乱とたこ
ぬきとをまは謀叛とつねきとをざれと
謀反人ふりぶ。秦の時世丹事をとげざるを
いつぬきとをざるあ地日信よ
日乃色ふ〜ふりぶきハ世ふ大乱ありて人民多と
とるべ。百八十日乃間よあり
日の暮一二を小雨ふりぶ二を
時方ひきを天下大乱あり

日の下小星のごとくぶ。たくさんの流星
流りひすふ。なるい天下を多く大
月雨て大旱。寅大旱大飢饉あり
乱ゆ。ふいてこち蝗のごとくあり。氣あるは大旱也。
ハ疫病白きハ乱赤きハ
を下ハ合戦あるべし。日雨て
血乃ごとくなるは大飢饉なり
四の年ふ〜年ふ白きあ月後ハ
るひを下大乱ふ

七　月輪之候

月の初め十八日ふ〜ふ月後ハ下乱とたらん。世ふ

秋の月満ざる時ハ大旱にして飢饉とす又日より赤な
小月欠べきに虧ずして満月たるは六十日のうちに
兵乱あるべし
月黒角ある暈あるハ四方に兵乱おこる時その暈の色
あかきハ国を亡し月の色黄にしてあをきハ飢饉疫
赤きハ火災くろきハ水災あり満月二つに破て三ツ
あるは兵乱の起るしるし也
月蝕によりあをきハ大旱也蝕の色のくろきハ大
乱蝕の色ひざよ風吹あるは黄年大に飢饉し餓
死民たふるゝ也
月日中に東方に出ゆくハ太平の瑞あり

月のめぐりに三の星ありて月におゝひて鼎の足
のごとく三ツゆるハ十日の内に異国の賊兵おこる事
あへきしるし也賊をよく守るべし新月（二日月也）の中に
よ星ひとつありて光りあきらかなるハ天下よく
をさまり君の威をうしなひ君のまつりごとを定め
天下太平になるしるし也新月の南に角ハ（三日目の月の西よりとがり也）
星あるハ謀叛人あるしるしその参をこるをハさたるの
しるし也
月蝕十分にして蝕星出るハ六十日のうちに大乱おこ
るべし月出る時大星の中にいるべし八月に大雪ふりて五穀こ
のかぎと民飢くて盗賊おこる月のめぐりにわりきざ

あり。角のごとくなるは、三年を出でずして、必ず
疫病あり。

月乃変とは、二星あるは、西の方ありて、敵対
陣を固めて、戦方となり。北を軍体の時よりあり。
中ほど絶れかくるべし。

月出て四星の中へ入ぬれば、大ごとあり。
なし。陣を出ずと出ることあり。ふるつも北西乃出入未
つまて必民大よろぶべし。

八　蓮星　らく奇

西星とは、こちらこちらあり。光り大なりしてゆるりあ
るひは三星あり。あるいまわり。赤き氣あり。京星とかづく
武星あり。りゑ和仁義乃元のかそ乃国大よさるも

九　寿星　らく奇

大なる星西方ふ出ぐ。光大よろ美なること青の星と
名づく。天子命あり。国々を治りら治よ

十　妖星　えく奇

妖星とは、これ天下災難乃あるべきとぞ。ねくらわ
らいて出ずれば、形らのあきい年きわざひそ
乃異なる地形らふハ凶ざりのもとくうくぞ。
りて凶ざるまる地

○天星東南のうまよりうてゝ天下騒乱の面
のうまよりうてゝ布帛高くあがる也
しゝ東北のうまうりうてゝ西まよりあり米た
くゝ民飢ゑ北のうまよりうてゝ年穀しとゝ
りうゝ乱也
○天狗星ハうまよりうてゝ下半也赤きえりの出く
聲のうまくゝ雷あり雷はえりうつりて大なる
かゝりくゝ内黄ゝ雨ふりて大乃形のごとゝ星出て乱
乱あり立穀高くゝ高値とうあり
○雲光星ハうまよりうてゝ星乃形ら強乃ものゝ
しゝ雨ふりうまバ三候ゝ雨ふりうてゝ高くゝ高也ごとゝ

○天捨星ハ東北より出くゝ長さ六尺三月の法あり
ゝ高くゝ高ら下ゝ飢饉疫病ゝ乱ゝ
ちりさゝあり
○六鼎星ハ東南乃方よりうまて北とゝまゝ
のまゝ乱ちハ聲星より出てゝ大なるうくゝごとゝ
ゝこれゝ乱城害とうゝ天下ゝ選ゝあり
中大ゝ乱ゝさゝ
○白虎星ハ東南乃方より出くゝ白星ゝ形ちり
うりゝゝゝのうゝうゝうゝこれゝうてゝ
高くゝ高ゝ

○乱星は西南の方より出くけるゆゑ大うるゆゑ西く
あるして燒失せしゆゑ長き数なれてあるひ宮又
又い二三あり左右の眼玩当りは星わるるれば三年
をおゆして國ゆうゆゑあひゆゑよ数このゆゑ民
餓死に

○國皇星はかうさ大あり也ゆゑ南極乃老人星
りゆゑ山星あるゆゑ國ハ天下乱
右ゆゑの妖星六千余種ゆゑ創餓乱とけゆゑ
ゆゑ歳星熒惑辰星猪田星白このゆゑ星もあるゆゑ
海ゆよりゆゑ日にあるて猪となり猪となり星あり
上にあり下にあるゆゑ乱創餓あるゆゑ星下りゆゑ

てゆゑのゆゑ海ゆゑ星ゆゑ人あり星のあ
たるゆゑ事あるゆゑ乱を彗星は天下ゆゑ年の
世りはかれてあるゆゑ山星すかりゆ
出るゆゑ星ゆゑ出ゆゑ或は月ゆゑ出るゆゑ
て老乃老りひゆゑ乱おりゆゑ乱おりゆゑ
星の白ゆゑは西よ猪と生ゆゑ人なるは猪あり
つゆゑ白ゆゑ大乱あるて民を殺るゆゑ
とゆゑ南よ熒惑星ゆゑ天下旦ゆゑ
ゆゑ三月乃西よ乱あるゆゑ出ると大歳星ゆゑ六十日
ゆゑ乱ゆゑ云ゆゑ西よ出ると金星ゆゑ六十日
乃ゆゑ遊餓ゆゑ出ると辰星ゆゑ乱

たこうて天子を殺ごとゆうとだし星
とゆうごとく洪水旱魃火災疫病盗賊飢饉さ
ゆうあるまで屋をゆまでばどうひいよくこうぎ
宿星としてハ廿八宿の星舎よ妖星入てその分度と
うごくごとく変乃星としてハ也これ琴星の変じ
ものあ也凡星の地よ落ちるハ石となるごとしたに
うごくハ流星也でもあるとゆのがるハ死星也妖星乃
名六十四種ありこれ今ものべ不ものるたるの也

清水天文之巻終